「総合的な学習の時間」モデル事業中間報告

（モデル地域名　愛知県　東海市加木屋中学校地域）

Ⅰ．地域の概要（平成１５年４月）

東海市加木屋中学校地域（モデル校数：小学校２校、中学校１校）
東海市立三ツ池小学校、東海市立加木屋南小学校
東海市立加木屋中学校

Ⅱ．平成１５年度の実践研究内容

１．推進地域の研究の見通しを踏まえて定めた、モデル地域としての現状及び研究の計画・見通し等

（１）モデル地域における「総合的な学習の時間」の現状と問題点

本モデル地域の三校は、種々の情報交換及び行事の調整を目的とした「加中校区連絡会」を定期的に開催している。また、平成１３・１４年度には、三校が愛知県および東海市教育委員会より「学校と地域を通じた奉仕活動推進事業」の指定を受けて、地域とのつながりを重視した奉仕活動の実践を進めた。このように、三校は以前から連絡を密にして諸活動に取り組んでいる。

「総合的な学習の時間」については、各校とも、国際理解、情報、環境、福祉などを中心としながら、特色のある活動を盛り込んで独自の実践を進めていた。しかし、そこには系統的な教材の配置や「総合的な学習の時間」を通してねらう児童生徒像や育成したい力など、本来小学校・中学校の連携の中で明確にしておかなければならないことが不十分であった。

（２）モデル地域の実践研究について

ア　研究のねらい

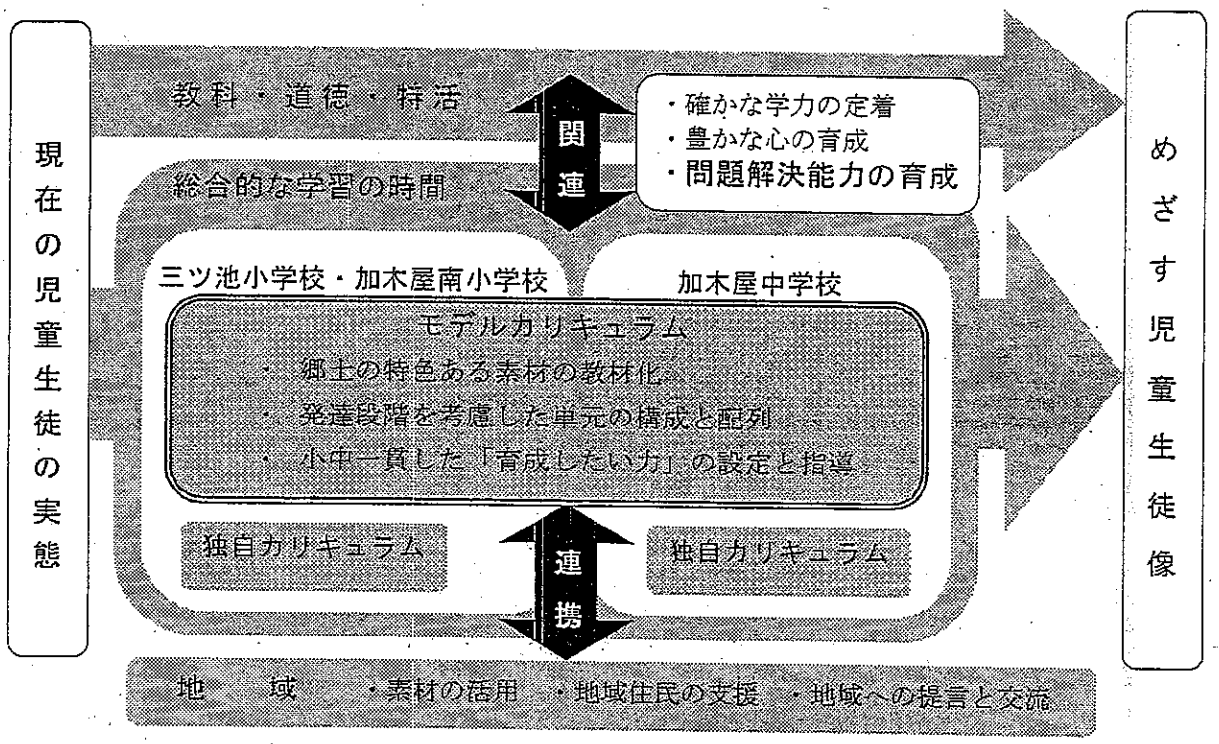
本年度、東海市独自の総合的な学習の時間のモデルカリキュラムが作成され、本モデル地域が文部科学省より「総合的な学習の時間」モデル事業の地域指定を受けた。これを機会に、小中の連携の中で、発育段階を考慮した教材の開発とともに、「総合的な学習の時間」における育成したい力の明確化と、その定着のための小中を見通した教育課程の編成を通じて、子どもたちの積極性や粘り強さ、問題解決能力の育成などをめざして研究実践に取り組むこととした。

イ　研究の計画

三校の総合的な学習の時間は、東海市モデルカリキュラム（小学校は、英語活動、日本文化体験活動も含む）と各校独自のカリキュラムからなる。本研究では、東海市モデルカリキュラムの実践と修正及び各校独自カリキュラムの実

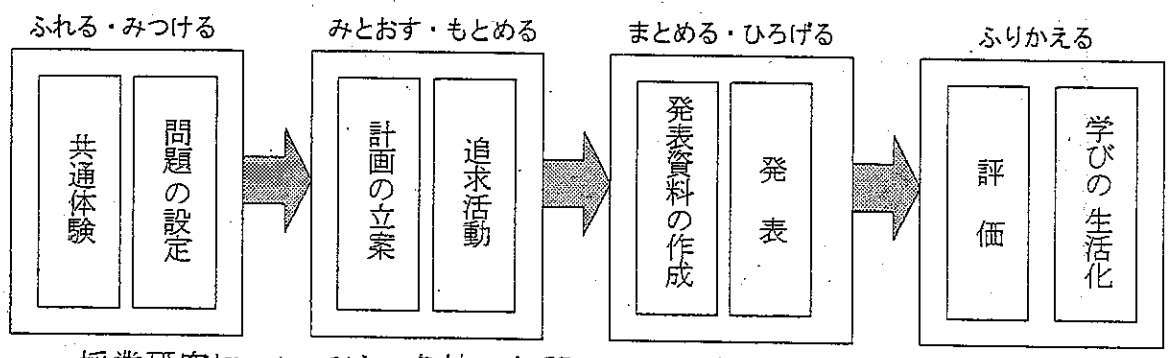
践を通して問題解決能力の育成に焦点を当てて研究を進める。研究のテーマとその概要は次に示すとおりである。

【研究テーマ】「自分のまちを大切にし、自らの生き方を考える児童生徒の育成」
——小中学校を見通した「総合的な学習の時間」の実践を通して——



研究１年次には、発達段階を考慮した教材の開発について、東海市のモデルカリキュラムをもとに三校で検討を進めるとともに、下図のような総合的な学習の時間における基本的な学習過程の確立をめざす。

【学習過程の基本パターン】



授業研究については、各校で年間１０回程度行い、指導方法の工夫改善にも努める。研究２年次には、上記の取組をさらに充実させ、１１月にその成果を報告する研究発表会を開催する。

ウ　取組の評価と検証

研究のねらいの達成状況は、あくまで授業の内容と児童生徒の変容に焦点を当てて評価する。授業については、授業研究を中心に、児童生徒の視点に立って単元構成から指導内容の細部までを精査する。児童の変容については、教師

記入用の観察カード、ポートフォリオ、自己評価カード、意識調査など、さまざまな方法によってその把握に努める。また、前述の育成したい力については、単元ごとに評価規準を設定し、上記の児童生徒の変容と同様な方法によってその定着を検証する。

2．平成１５年度の取組概要

東海市モデルカリキュラムは、主題として「水」、「生と死」、「細井平洲先生」、「校歌」などを設定している。三校では、これらの主題を「水」、「生と死」、「郷土」の三領域に分け、単元を構成した。また、東海市モデルカリキュラムの三校の生きる力にかかわる基盤を「郷土愛」と定め、各学年ごとに総合的な学習の時間でねらう郷土愛にかかわる姿を明らかにしながら単元を構成した。こうした視点に立ち、東海市モデルカリキュラムを、加木屋中学校区に即したものに編成し直した。

また、育成したい力について、下記のような基本的な考え方をもとに、毎時間の授業でその育成に力を注ぐ。実践にあたっては、これらの五つの力をさらに小学校中学年、高学年、中学校の三段階に分けて設定し、段階的な育成を行うようにしている。

【育成したい力】

活動の意欲……自ら話し合いに参加したり、問題解決のために粘り強く活動したりしようとする力
設定する力……自分の生活や体験などから問題を発見し、活動の計画を立てる力
追求する力……必要な情報や資料を取捨選択しながら自分の問題を解決する力
表現する力……話し合いで自分の考えを話したり、問題解決したことをわかりやすく伝えたりする力
生活に生かす力……取組をもとに、情報を発信したり、できることを考えて実践したりする力

授業実践にあたっては、単元を通してねらう児童生徒像があいまいであるというご指導をいただき、年度半ばよりそうした点にも留意して実践を進めるようにしている。育成したい力については、前述のとおり、五つの力をさらに三段階に分けて設定し、その定着をめざしたが、具体性が十分でないという指摘を受けて、年度終盤に大幅に見直している。また、表現や問題追求の分野など、教科・領域との関連も重要であることが指摘され、それ以後指導案への明記とともに、日常の授業の中でも意識しながら指導にあたるように共通理解を図った。（その他、取組経過は別紙参照）

3．平成１５年度の成果及び課題

東海市の総合的な学習の時間のモデルカリキュラムと各校の独自カリキュラムの実践と修正を通して、問題解決能力の育成を図った。また、校区の特色を生かした総合的な学習の時間の活動を通して、地域に生きる自分の今を振り返るとともに、郷土を愛し、郷土のよりよい発展に能動的にかかわろうとする子どもの育成を目指してきた。研究１年次を振り返って、次のような成果と課題があった。

【成　果】

○三校職員の自己評価結果によれば、加木屋地区の特色と小中学校の連携を意識した単元構想ができたと回答した教員は４７％である。また、計画的に総合的な学習の時間に取り組めたと回答した者は７０％である。決して満足できる結果ではないが、子どもたちの発達段階を考慮した地域素材の教材化、郷土とともに育つ人づくりをめざす総合的な学習の時間の計画的な実践など、三校の職員が共通理解を深めながら実践を進めることができたと考えている。

【課　題】

○三校職員の自己評価結果によれば、地域の「人・物・事象」を生かした問題解決的な学習展開が十分に行えていないと回答した教員は４６％に達している。また、自信を持ってできていると回答した者は残念ながらいなかった。総合的な学習の時間の趣旨を踏まえながら、五つの力の育成をめざして、単元構想の見直しといっそうの授業改善が必要である。

○児童生徒アンケート結果によると、資料収集やグループ学習などに意欲的に取り組む子どもが小中ともに６５％を超える。しかし、ともすると表面的な学習で終わりがちになる総合的な学習の時間を反省し、他教科・領域とのかかわりや小中学校での系統的な学習計画をもとにした授業実践により、子どもたちが主体的に問題を解決し、生きる力を育む時間となるようにしていく必要がある。

○より的確な形成的評価を実施し、よりよい学習を行うため、全体の評価だけでなく抽出した子どもの個の変容を単元を通して見取り評価する必要がある。個の変容を丹念に追うことにより、集団全体の具体的な成長を探るとともに、評価活動の改善と指導計画の見直しが行えると考える。

Ⅲ．平成１６年度の実践研究の概要

授業実践にあたっては、課題に示したように抽出した数名の児童生徒に焦点を当てて、個の変容を把握すると同時に指導のあり方について検討を重ねる。また、育成したい力を五項目、三段階で設定しているが、これらが適切かどうかという点、さらに望ましい評価のあり方について追求する。こうした活動を繰り返しながら、研究のねらいにせまる。

１６年度は、１１月に公開授業並びにその成果を報告する研究発表会を開催する。その際、東海市モデルカリキュラムをもとに、地域の実情に合わせて作成した加木屋中学校区のカリキュラムを公開する予定である。

１１月以降は、研究のまとめ及び次年度への準備として、成果と課題の洗い出しとカリキュラムの再修正を行う予定である。

「総合的な学習の時間」モデル事業　加木屋中学校推進地域１５年度取組の概要と１６年度の計画

1　推進委員会の取り組み

推進委員会	推進小委員会	月　日	主な協議内容
第１回		H15.4.16	研究組織、年間計画の作成
第２回		5. 1	研究の進め方
	第１回	5.14	実態調査の検討、目指す児童像、育成したい力
	第２回	5.28	育成レベル、単元・一単位時間の検討
第３回		6. 3	児童生徒の実態分析、総合学習の目指すもの
第４回		6.18	全体計画「構想図」の作成、アンケートの作成
	第３回	6.27	単元の構想図(教科、道徳、特活、地域との連携)
第５回		7. 1	総合を中心としたカリキュラムの検討
	第４回	7.16	プロジェクトの目標、三校合同学習会の原案
第６回	第５回	7.29	児童生徒の実態分析、基本的な学習課程
	第６回	8.20	総合を中心としたカリキュラムの検討・作成
第７回		8.29	目指す児童生徒像に迫る基本的な学習課程
	第７回	9. 9	研究テーマの検討、育成したい力の構造化
	第８回	9.16	作業部会の方針（資料・広報・環境）
第８回		9.26	文科省による視察の報告、作業部会からの提案
	第９回	10.22	総合的な学習の内容系列表の作成
第９回		10.30	合同学年会の報告、検証授業の計画
	第10回	11. 4	教育課程編成の理論部分の確定に向けての検討
第10回		12. 9	検証授業の成果と問題点
	第11回	12.18	小中の系統立て、市研究集録原稿の検討
	第12回	12.24	市研究集録原稿の総点検、理論・カリの総括
	第13回	H16.1.14	カリ及び活動案のあり方、小中の系統立て完成
	第14回	1.28	研究の中間まとめ（自主）の方針と分担
第11回		2. 4	研究の中間まとめと１年次カリキュラムの作成について
	第15回	3. 5	中間まとめの原稿とカリキュラムの検討
第12回		3.22	本年度のまとめと次年度の計画

2　３校合同学習会・公開授業研究（校内の授業研究は含めず）

回	月　日	主な内容
第１回	H15.6.11	三ツ池小　３年「トマトジュースを作ろう」
第２回	7.28	三校合同学習会（３校全職員）研究の進め方について
第３回	9.22	加南小　６年「川のよごれをさぐってみよう」
第４回	9.29	加中　２年「命のゆくえ」
第５回	12. 3	加南小　５年「平洲先生に学ぶ」 加南小　６年「生と死」
第６回	H16.1.14	三ツ池小　３年から６年「チャレンジタイム」
第７回	2. 2	三校合同学習会（３校全職員）講演会　愛知教育大　寺本　潔先生
	3. 2	三校合同学習会（３校全職員）講演会　愛知教育大　寺西和子先生

・１６年度は、毎月３回の授業研究（内２回は愛知県教委　庄子亨先生をお招きし、ご指導を受ける。）と毎月１回の研究推進委員会を基本とし、小委員会、学習会等を随時開催する。

・１１月１９日、研究発表大会を開催する。なお、研究の資料等については、７月～８月の夏季休業中に作成する予定である。発表の当日の詳細については、東海市教育委員会と連携を図りながら検討していく。

地域名（愛知県東海市横須賀中学校区）

Ⅰ．地域の概要（平成１５年４月現在）

地　域	東海市立横須賀中学校区（モデル校数　小学校３校中学校１校）
小　学　校	東海市立横須賀小学校
	東海市立加木屋小学校
	東海市立大田小学校
中　学　校	東海市立横須賀中学校

Ⅱ．平成１５年度の実践研究の概要

１．推進地域の研究の見通しを踏まえて定めた，モデル地域としての現状及び研究の計画・見通し等

(1) モデル地域における「総合的な学習の時間」の現状と問題点（４月の時点で）

・推進地域（東海市）の基本方針，「総合的な学習の時間」で問題解決能力を育成するという方向性を受けて，その力を育成するために，モデル地域全体（４校）で，どのような学習活動を展開していけばよいのか基本方針が設定できないでいた。

・総合的な学習の時間でどういう力を付けたいのか，各校のめざす児童像がそれぞれあり，育成したい児童像をモデル地域全体として共通理解し設定することがなかなか困難な状況であった。

・「総合的な学習の時間」を単なる体験活動の時間として捉えるべきではないということは各校理解していたが，どのような体験活動を「総合的な学習の時間」に効果的に位置づけていけばよいかという認識が様々であった。

(2) モデル事業の実践研究について

○２年間を通じた研究の計画・見通し

【解決すべき課題その１】

・児童の実態をもとに，研究主題を設定し，英語活動と日本文化理解の点からそのテーマに迫るための大まかな枠組みを作る。

・そのために，４校の代表が集まり，基本方針を定める。
（平成１５年４月～６月）

【解決すべき課題その２】

・３小学校の児童は同じ中学校に進んで行くという現状を踏まえ，３小学校１中学校の連携を図る。

・そのために，４校の連携を重要視した研究組織を作り，各校教頭・教務主任・研究主任を中心に基本方針を共通理解しつつ研究を進めていく。
（平成１５年度４月～１２月）

【解決すべき課題その３】

・市のモデルカリをもとにして，４校がそれぞれ実践研究をしたことを踏まえて，どのような体験活動を展開すべきなのか，よりよい方向を探る。

・そのために，英語活動・日本文化理解の両面から，４校が共通理解して進めていく部分と独自性を発揮して実践する部分とを整理する。

（平成１６年２月～４月）

【解決すべき課題その４】

・モデル地域としての研究の成果を，どのようにして他地域に発信するか具体的な発表会の方法を検討する。

・そのために，発表会の準備を研究推進委員会を中心に具体的に進める。

（平成１６年４月～１０月）

○モデル事業としての取組の評価の観点と検証の方法

【評価の観点その１】

「総合的な学習の時間」を軸に，教科等の関連を踏まえて，全教育活動を通して問題解決的な活動を展開することにより，進んで人とかかわり，自分の思いを豊かに伝え合う児童生徒が育っているか。

◇検証の方法

・「総合的な学習の時間」の授業研究を進め，授業中の姿を通して，児童生徒に，進んで人とかかわり，豊かに自分の思いを伝える力が育っているか検証する。

・道徳・特別活動・各教科の授業研究を進め，同様に検証する。

・その他，全教育活動の中の児童生徒の活動の様子から，同様に検証する。

【評価の観点その２】

「総合的な学習の時間」を活用して，小学校・中学校連携のもとに，児童生徒の知的好奇心が高い英語活動を行うことにより，児童生徒に，よりよく人とかかわろうとする力が育っているか。

◇検証の方法

・「総合的な学習の時間」の英語活動の授業研究を進め，その授業の中の姿から，児童生徒に，人とよりよくかかわろうとする力が育っているか検証する。

・発表会・集会活動等の児童生徒の活動の様子から，同様に検証する。

【評価の観点その３】

「総合的な学習の時間」を活用して，日本文化理解のための問題解決的，体験的な活動を行うことにより，児童生徒に，よりよく自分の思いを伝えようとする力が育っているか。

◇検証の方法

・「総合的な学習の時間」の日本文化理解の授業研究を進め，その授業の中の姿から，児童生徒に，よりよく自分の思いを伝えようとする力が育っているか検証する。

・発表会・集会活動等の児童生徒の活動の様子から，同様に検証する。

２．平成１５年度の取組概要

実施時期	取組概要	取組のねらい等（児童の評価の観点も含む）
平成１５年　４月	「総合的な学習の時間」モデル事業推進地域指定	
平成１５年　５月	（モデル地域単位） 第１回企画運営委員会 ・研究主題・組織等について 第１回学校・地域運営委員会 ・研究の概要説明・協力依頼	
平成１５年　６月	（推進地域単位） ３モデル地域連絡会 ・指定研究の概要説明	・以後，モデル地域間の連絡調整のため，毎月開催された。
平成１５年　８月	（モデル地域単位） 第２回企画運営委員会 ・研究の流れ・事業計画について	
平成１５年　９月	（推進地域単位） 文部科学省担当者訪問 ・モデル事業の中間報告 ・モデル地域・モデル校の取組に対する指導・助言	・指導・助言を踏まえてモデル地域・モデル校で活動を評価し計画の見直しをする。
平成１５年１２月	（推進地域単位） ３モデル地域研究主任連絡会 ・テーマの再確認 ・今後の方向	・各モデル校の年間計画の実施状況について確認をする。
平成１６年　２月	（モデル地域単位） 第３回企画運営委員会 ・４校交流会について （モデル地域単位） ４校交流会 ・英語活動の公開授業 ・日本文化理解活動の成果の発表	・児童生徒の姿から，研究主題への迫り方を検証する。
平成１６年　３月	（推進地域単位） 指定研究事業打ち合わせ会 ・現状報告・来年度の予定 （モデル地域単位） 第４回企画運営委員会 ・本年度のまとめと来年度に向けての方針について協議	・各学校間の連携の視点から指導・助言を受け，今後に生かす。 ・来年度の発表会に向けて，研究活動の方向を確認する。

3．平成１５年度の成果及び課題

○成果

・４校合同で，３０回超える授業交流会・授業研究会を行った結果，それぞれの教師が授業改善・授業改革の必要性を感じるようになり，自らの授業をよりよくしていこうという発言が聞かれるようになった。

・教師一人一人が，英語活動の基本的な授業方法を理解し，円滑な授業が実施できるようになった結果，児童がＡＬＴや周りの児童に進んでかかわろうとする態度が見られるようになった。

・日本文化理解の活動において児童に問題意識を持って取り組ませることにより，主体的に活動するようになり，自分の思いを積極的に表現できるようになってきた。

○問題点

・「総合的な学習の時間」だけに絞って研究を進めるのではなく，道徳・学級活動・各教科，その他すべての教育活動とのかかわりを考慮し，全教育活動を視野に入れて研究主題の実現を図る。

・小学校の活動を中学校においてどのように受けとめ，発展させていくかという観点で小学校・中学校の連携のあり方を見直す。

・４校合同研究であるという点を確認し，基本的理念を再度共通理解する。

Ⅲ．平成１６年度の実践研究の概要

実施時期	取組概要	取組のねらい等（児童の評価の観点も含む）
平成１６年　４月	（モデル地域単位） 第１回運営委員会 ・新組織作成・共通理念再確認 ・発表に向けての準備 ・授業研究の打ち合わせ	・４校連携の意味を再確認し，円滑な新組織のスタートをめざす。
平成１６年　６月	（モデル地域単位） 学校訪問 ・研究のまとめ，発表会に向けて指導・助言を受ける。	・指導・助言を踏まえて，モデル地域の研究活動を見直す。
平成１６年　８月	（モデル地域単位） 第２回運営委員会 ・紀要完成 ・発表会細案完成	・発表会当日に向けて細かい役割分担をする。
平成１６年１０月	（モデル地域単位） 助言者との打ち合わせ会 第３回運営委員会 ・発表会日程・会場準備確認	
平成１６年１１月	（推進地域）研究発表会	

Ⅰ　地域の概要（平成15年4月現在）　（モデル地域名　愛知県上野中学校区）

上野中学校区（小学校１校、中学校１校）
東海市立渡内小学校
東海市立上野中学校

Ⅱ　平成15年度の実践研究の概要

Ⅰ　推進地域の研究の見通しを踏まえて定めた、モデル地域としての現状及び研究の計画・見通し等

（Ⅰ）モデル地域における「総合的な学習の時間」の現状と問題点

「総合的な学習の時間」において、より多くの対象や他者とかかわらせたい。その中で、お互いのよさを認め合い、課題を見つめ合う。さらに、手を携えてそれぞれの問題解決に向かい、自他共に生かし高め合うことのできる子どもを育てたい。

このような考えのもと、「かかわる　見つめ合う　高め合う－コミュニケーション能力の育成を通して－」を設定し、研究・実践に取り組んできた。

教科、道徳及び特別活動で身につけた基礎・基本が、総合的な学習の場で生かされ、高められる。また、総合的な学習に取り組む中で、教科等における学習の大切さが分かる。こうした教科等の学習と総合的な学習のフィードバック的な関係を重視し、実践にあたっては、教科、道徳及び特別活動の学習においても、コミュニケーション活動を進めていく上での基礎となる力の育成を図ってきた。

小学校では、英語活動、日本文化体験活動、異年齢交流活動を通して、多くのもの・こと・人とかかわることができた。その結果、新しいもの・こと・人とかかわりたいという意欲が高まり、ものおじせずコミュニケーション活動ができるようになってきた。反面、いろいろなかかわりの中で「話す・聞く」力、得た情報を自分なりに活用する力など、コミュニケーション活動の基礎・基本となる力が十分身についていないことが課題である。中学校では、教科等の学習で「伝え合う力」を身につけさせることに力点をおいた結果、原稿やメモを見ずに人前で堂々と話すことができる生徒が増えてきた。しかし、総合的な学習の時間の中でのコミュニケーション活動が十分とは言えず、小学校での英語活動、日本文化体験活動を継続・発展し切れていないという問題点がある。

（2）モデル事業の実践研究について

○2年間を通した研究の計画・見通し

①解決すべき課題

・教科や道徳、特別活動において話し合い活動・発表などのコミュニケーション活動の場を意図的に設定することにより、他者の意見・考えを取り入れながら自己の問題解決・課題達成ができる児童・生徒を育てる。

・総合的な学習の時間において英語活動、日本文化体験活動、異年齢交流活動に取り組む中で、もの・こと・人と進んでかかわり、自他のよさに気づき、多様なものの見方・考え方や共に成長していこうとする気持ちをもった児童生徒を育てる。

・教科等の学習を通して得た基礎・基本を総合的な学習の時間の中で生かし、また、総合的な学習の時間を通して教科等の学習の大切さに気づき、自己学習力を高めることができる児童・生徒を育てる。

②そのための具体的な取組・方策とその時期

〈15年度〉

○各学年の各教科、道徳、特別活動の年間カリキュラムを見通し、それぞれの学習を通して育てたいコミュニケーション能力と重点単元の一覧表を作成し、目標を明確にして授業実践をする。

○各教科、道徳、特別活動の指導案にコミュニケーション能力の育成に関する活動を細案として示すなど、本研究独自の工夫を加える。

○総合的な学習の時間での英語活動について、以下の点に留意して取り組む。

・東海市教育課程研究会作成によるカリキュラムを土台とし、担任とＡＬＴ

との話し合いのもと、各学年・各学級の実態を十分に考慮した授業を工夫する。
・ＡＬＴと担任との人間関係を深めるとともに、子どもとＡＬＴとの交流の場を授業内外で積極的に設定する。
・年間一人１回以上の研究授業を行う。さらに、研究協議会での話し合いを通して教員相互の力量を高め、よりよい英語活動のあり方を追求していく。
・担任とＡＬＴが協力して授業に生きる教材作りをする中で、共同授業者としての連帯感を育てる。
・小・中合同研修会や研究授業の参観、研究協議会を通して、児童・生徒の実態を把握し、小学校での英語活動を継続発展させた中学校での英語科の授業のあり方を追求する。

○総合的な学習の時間での日本文化体験活動について、以下の点に留意して取り組む。
・外部講師の指導のもとに体験する中で、文化そのものとのかかわりとともに、文化を受け継ぎ伝える人とのかかわりをもたせる。そうしたかかわりの中で、自国の文化を大切にし、守り受け継いでいこうとする気持ちを育てる。

○総合的な学習の時間での異年齢交流活動について、以下の点に留意して取り組む。
・運動会、学校祭、授業交流、読み聞かせ、宿泊合宿、ゲームラリー、コミュニティ主催行事などの場で、異学年・異年齢の人と交流することを通して相手の立場や気持ちを思いやり、時・場・人に応じてコミュニケーションしようという意欲を高める。さらに、コミュニケーションをする中で、共に手を携えて成長していこうとする気持ちを育てる。

〈16年度〉
○小・中一貫した総合的な学習の時間のカリキュラムを作成し、小・中学校での学習内容の系統性を明確にして授業実践に取り組む。
○小学校の総合的な学習の時間において、市教育課程研究会作成のカリキュラム以外に、独自のカリキュラムを作成し、実践する。
○小学校の総合的な学習の時間において、学年の系統性を考慮した日本文化体験活動のカリキュラムを作成し、実践する。
○中学校の総合的な学習の時間において、各学年３０時間程度の独自のカリキュラムに基づく英語活動に取り組む。英語科の教師以外に担任も指導に当たる。
○各教科、道徳、特別活動の指導案にならい、総合的な学習の時間の指導案にコミュニケーション能力の育成にかかわる活動等を明記する。また、教科等の学習及び総合的な学習の時間の学習において、コミュニケーション能力の育成にかかわる抽出児を選び、予想される活動及び教師の支援のあり方、評価について詳述する。

○モデル事業としての取組の評価の観点と検証の方法
・児童・生徒の変容を個票に継続して記録することで、形成的評価を行うとともにこうした評価を次の指導に生かしていく
・研究授業を行い、抽出児をはじめとした児童・生徒の活動や変容を観察する。また、研究協議会を通して、取組への成果や問題点を明らかにしていく。

2　平成15年度の取組概要

(1) 総合的な学習の時間

① 英語活動

ア　英語活動実践

小・中の教員の共通理解・連携を土台とし、授業実践や合同研修を通してコミュニケーション能力の育成と国際理解を高めることのできる英語活動のあり方を追求してきた。

〔実践例―小学校６年１組　英語は音楽・パート１〕
６月２６日（木）、竹内正樹指導主事、上野中教員の参観も得て、研究授業を行った。前日より来校していたオーストラリアの小・中学生６名と教師２名も急きょ加わり、終始楽しい雰囲気の中授業が進められた。
〈研究協議から〉
・授業においては、ＡＬＴを前面に出し担任は黒子としての役割を果たすことが大切である。

・小学校の英語活動においては、ネイティブな発音を聞かせることが大切である。
・発音をカタカナ表記することには問題がある。
・授業以外での子どもとＡＬＴの交流が大切である。
・低学年からものおじしない態度を育てたい。
・教師自ら英語を使う努力をしていきたい。
・コミュニケーションを通して相手を思いやる心を育てたい。
・今後、さらに小・中の連携を深めていきたい。

〔実践例－中学校「上中祭」での英語スピーチ〕
本年度初めて、「伝え合う力」の育成を目指し、「話す力」を育てる場として、中学校３年生が英語スピーチに取り組んだ。一人一人が「わたしの宝物」をテーマとし、辞書を片手に調べたり、ＡＬＴに文章がおかしくないか尋ねたりするなど、悪戦苦闘しながら原稿を作り上げた。まず、学級で発表会を行い代表者を決定した。代表者は、文化祭で自信をもって発表を行った。

イ　校区合同研修会
小・中学校の教員が共通理解のもと英語活動に取り組めるよう、長期休業等の機会をとらえ、４回の合同研修会に取り組んだ。

〔実践例－冬季合同研修会〕
１２月２４日（水）上野中学校で、小・中学校の全教員が英語活動研修会を行った。上野中学校区の指導助言者、田島薫先生を招聘し「英語活動について」と題して講演を聞き、質疑応答を行った。田島先生から「総合は何のために行うのか」「国際社会に生きる子どもたち」「小学校英語活動カリキュラム」などについて話を聞いた。本研究が教師にとって使命と考え、主体的に研究を進めることがよい研究につながっていくことを確認し合うことができた。

②　日本文化体験活動
ア　日本文化体験活動実践
小学校では、ボランティアの外部講師の支援をいただきながら、各学年の実態に応じた体験活動に取り組んできた。

〔実践内容〕
３年生……銭太鼓　　４年生……よさこい踊り、絵手紙、郷土料理
５年生……常滑焼き、絵手紙　６年生……お花、お茶、琴、囲碁・将棋、焼き物

また、中学校では、猩々滅多を手作りし、学校祭のアピールもかねて校区内を練り歩くという活動を行った。

イ　学習成果の発表
３年生……創立記念式典アトラクション、コミュニティふれあい広場舞台発表
４年生……コミュニティふれあい広場舞台発表、市福祉まつりでの舞台発表
　　学習発表会舞台発表
５年生……作品展示、学習発表会での体験劇の舞台発表
６年生……学習発表会での琴演奏
また、琴クラブは、上野中学校文化祭での舞台発表を行った。

(2) 教科、道徳、特別活動
上野中学校、渡内小学校のそれぞれで、コミュニケーション能力の育成を目指し、各教科、道徳、特別活動における授業実践を精力的に行った。特に、中学校では「伝え合う力」を培う授業の展開と教材を中心に、研究授業に取り組んできた。

〔実践例－中学校３年３組英語科　Speaking　Plus3 ～道案内～〕
１０月１０日（金）、田島薫先生（上中校区研究の指導・助言者）、深谷孟延教育長、竹内正樹指導主事、渡内小教員の参観のもと、研究授業を行った。ＡＬＴとのＴＴで、外国の人と意欲的にコミュニケーションする気持ちをもつことができることをねらって進められた。
〈研究協議から〉
・ＡＬＴとの打合せを十分確保する。
・言い回しだけ教えておいて、自分で考えて英単語を使って表現できるようにする。
・スピーチに対して英問英答する気持ちを育成する。
・英会話による訓練を重ね、自分から伝えようとする気持ちを培っていく。

・グループ活動を行うときは、事前に役割をきちんと決めて活動させるとよい。

(3) 異年齢交流活動

平成１３年度から進められてきた上野中学校区の異年齢交流活動は、子ども同士、子どもと大人、さらに大人と大人の交流の場を少しでも多くつくり、年齢を超えた交流となるような次の企画を行ってきた。

①小・中学校における縦割り活動
②小・中学生の保育園での読み聞かせ
③中学校「上中祭」での保育園児・小学生・中学生の交流
④わたうちふれあい塾での園児・児童・生徒が一つ屋根の下で寝食を共にする宿泊
⑤ふれあいゲームラリー

２　平成15年度の成果及び課題

○成果

コミュニケーション活動の場を意欲的に取り入れた学習を進めることで、進んで考え、進んで発表するなど意欲的な態度が育ってきた。自分の考えに対する人の意見にも耳を傾け、課題解決に向けて協力し合う場面も多く見られるようになってきた。また、これまでは原稿やメモを見ながら話すことが多かったが、相手を見て話すという態度も育ちつつある。総合的な学習の時間でのさまざまな学習や体験を通して、子どもたちは多くのもの・こと・人とかかわりをもつことができた。その結果、自分から進んで追求しようとしたり人と交流しようとしたりする姿が見られるようになってきた。

小学校にオーストラリアの小・中学生が来校した折には、英語活動で身につけた英語を精一杯使って話しかけていき、相手に通じた喜びに小躍りする姿が見られた。また、放課には、体育館に誘い、一緒にバスケットボールやドッジボールを楽しんだり、こま回しを教えたりという光景が見られた。相手に自分のことを知ってもらいたい、相手のことをもっと知りたいという思いが子どもたちの姿の随所に見られた。また、日本文化体験では、外部講師の方と接する中で、「教えていただく」という思いや礼儀をもって接するという態度が少しずつ育ってきたのを感じる。３年生の銭太鼓の指導にあたってくださった鈴木先生が、発表会前に子どもたちに涙を浮かべながら「最初はあまりに礼儀がないのに驚きました。でも、練習するたびに本当に礼儀正しく立派な演奏ができるようになり、とてもうれしく思っています。」と語られた。体験を通して、文化を受け継ぐ人の思いや受け継ぐことの厳しさを子どもなりに感じ取り、それが、子どもたちの姿に一歩一歩反映されていったのだと確信している。

○課題

本年度は、小・中の教員同士の連携は図れたものの、小・中の学習内容の系統性を明確にして実践するまでには至らなかった。来年度は、小・中一貫した総合的なカリキュラムに基づいた実践をしていきたいと考えている。また、異年齢交流活動については、英語活動、日本文化体験活動も含め、授業交流に積極的に取り組んでいきたい。

Ⅲ　平成16年度の実践研究の概要

○小・中一貫した総合的な学習の時間のカリキュラムを作成し、小・中学校での学習内容の系統性を明確にして授業実践に取り組む。
○小学校の総合的な学習の時間において、市教育課程研究会作成のカリキュラム以外に、独自のカリキュラムを作成し、実践する。
○小学校の総合的な学習の時間において、学年の系統性を考慮した日本文化体験活動のカリキュラムを作成し、実践する。
○中学校の総合的な学習の時間において、各学年３０時間程度の独自のカリキュラムに基づく英語活動に取り組む。英語科の教師以外に担任も指導に当たる。
○各教科、道徳、特別活動の指導案にならい、総合的な学習の時間の指導案にコミュニケーション能力の育成にかかわる活動等を明記する。また、教科等の学習及び総合的な学習の時間の学習において、コミュニケーション能力の育成にかかわる抽出児を選び、予想される活動及び教師の支援のあり方、評価について詳述する。
○教科、道徳及び特別活動、総合的な学習の時間において、小・中の授業交流を行い、系統性のある学習の確立を目指す。

（別紙２）

「総合的な学習の時間」モデル事業上野中学校区１５年度取組の概要、１６年度の計画

実施時期	取組概要	取組のねらい等（事業の評価の観点も含む）
5/29(木)	異年齢交流推進事業推進委員会	＊本年度の上中校区の異年齢交流活動のあり方について検討・協議
6/ 6(金)	市指定総合進捗状況説明会	
6/14(土)	渡内小親子学級講演会	＊異年齢交流活動
6/19(木)	異年齢交流推進事業推進委員会	
6/26(木)	英語活動６年１組授業公開・研究協議	＊小学校の英語活動を中学校の教師も参観し、小・中の英語活動の連携について協議。市教委竹内正樹指導主事より今後の英語活動のあり方について指導を受ける。
7/ 3(木)	異年齢交流推進事業推進委員会	
7/10(木)	異年齢交流活動部会	
7/11(金)	総合的な学習の時間モデル事業連絡会	
7/22(火)	わたうちふれあい塾部会	
7/25(金)	わたうちふれあい塾顔合わせ	
7/28(月)	上中校区夏期合同研修会	＊小・中の教師が英語活動の模擬授業に参加。英語活動の楽しさを体験。
7/30(水)	市指定総合進捗状況説明会	＊上中校区の研究の進捗状況を教育長、指導主事に報告。校区指定の研究であることを踏まえ、もっと連携をとって取り組むようにと指導を受ける。
7/30(水) ～7/31(木)	わたうちふれあい塾	＊異年齢交流活動
8/26(火)	上中校区研究推進委員会	
9/ 5(木)	上中校区研究推進委員会	
9/26(金)	教科研究授業・ 研究協議()	＊中学校の国語の授業を小学校の教師も参観。研究の指導・助言者の田島先生に指導を受ける。
9/29(月)	総合モデル事業３中校区連絡会	＊文科省に校区の研究について進捗状況を報告。総合的な学習のモデル事業であることを再度問い直し、研究内容を検討するようにとの指導を受ける。
10/ 2(木)	上中校区研究推進委員会	

10/ 3(金)	異年齢ふれあい行事部会	
10/10(金)	教科研究授業・上中校区研究指定講演会	＊授業参観の後、田島先生に総合的な学習、英語活動について講演をいただく。さらに、今後の研究の方向性について指導・助言を受ける。
10/12(日)	渡内コミ体育祭	＊異年齢交流活動
10/16(木)	総合モデル事業推進調整会	
10/20(月)	上中校区研究推進委員会	
10/25(土)	上中祭文化祭「琴演奏」	＊異年齢交流活動
10/26(日)	上中祭体育祭「風船割り」	＊異年齢交流活動
11/ 6(木)	上中校区研究推進委員会	
11/ 7(金)	異年齢ふれあい行事部会	
11/12(水)	教科外研究授業・研究協議	＊中学校での研究授業の後、研究協議会で教科等の学習と総合的な学習との関わりについて田島先生より指導・助言を受ける。
11/26(水)	ふれあいゲームラリー実行委員会	＊異年齢交流活動について協議
11/28(金)	上中校区研究推進委員会	
12/ 2(火)	総合モデル事業推進調整会	
12/ 4 (木)	上中校区研究推進委員会	
12/ 5 (金)	四役・研究主任研修会	
12/ 7(日)	渡内ふれあい広場コンサート ふれあいゲームラリー	＊異年齢交流活動
12/18 (木)	上中校区研究推進委員会	
12/24(水)	英語活動講演会「英語活動について」 上中校区研究推進委員会	＊田島先生に本年度の研究への取り組みについて評価をしていただき、今後の方向性についての示唆を受ける。
1/ 6(火)	上中校区研究推進委員会	
1/ 7(水)	上中校区合同研修会 上中校区研究推進委員会	＊校区のＡＬＴに英語活動についての感想を聞き、今後の英語活動についての意見・助言を受ける。
1/ 9(金)	上中校区研究推進委員会	
1/13(火)	総合モデル事業連絡会	
1/22(木)	上中校区研究推進委員会	
1/23(金)	ふれあいゲームラリー実行委員会	
1/27(火)	総合的な学習授業研究・研究協議	＊小学校で来年度の英語活動のカリキュラムに基づいた授業を行いカリキュラムの妥当性について協

		議・検討する。
2/10(火)	道徳授業研究・研究協議 上中校区研究推進委員会	＊小学校でコミュニケーション能力の育成を目指した道徳の授業を実施。竹内指導主事より、コミュニケーション能力の育成という目標と道徳の授業としての目標を明確にすることが必要との指導を受ける。また、研究推進委員会において、今後の研究にさらに連携をもって取り組むようにと助言を受ける。
2/18(水)	上中校区研究推進委員会	
2/21(土)	上野中学校合唱コンクール	＊異年齢交流活動の一環として、小学校１年生が歌と手話でＰＴＡコーラスに加わり参加。
2/26 (木)	上中校区研究推進委員会	
3/ 3(水)	総合モデル事業打合せ会	
3/ 4(木)	上中校区研究推進委員会	
3/10(水)	上中校区総合モデル事業進捗状況報告	＊竹内指導主事に研究の経過を報告。来年度の研究の方向性について指導・助言を受ける。
3/16(火)	市研究推進打合せ会	
3/17(水)	上中校区研究推進委員会	
3/24(水)	上中校区合同研修会	＊中間まとめ誌をもとに本年度の研究を振り返るとともに来年度の研究の方向性について共通理解を図る。
4/	市教育実践活動研究発表会公開授業等決定	
5/	上中校区合同研修会	
6/	中学校英語活動研究授業・研究協議会	
	異年齢交流活動「ゲームラリー」	＊異年齢交流活動
7/	小学校英語活動研究授業・研究協議会	
	わたうちふれあい塾	＊異年齢交流活動
9/22 (水)	市授業研究会指導案作成・製本	
9/13 (月)	第１次環境整備週間	
10/25 (月)	第２次環境整備週間	
11/ 9 (火)	市教育実践活動研究発表会要項・指導案作成・製本	
11/18 (木)	市教育実践活動研究発表会	